

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームまどか	評価実施年月日	平成20年2月26日
評価実施構成員氏名	代表取締役 吉田勝廣 専務取締役 吉田静子 常務取締役 半田佳美 管理者 阪本淳子		
記録者氏名	阪本淳子	記録年月日	平成20年2月26日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>施設長の母親が他のグループホームに入居していた時の体験の中で自ら感じた疑問や問題点等を自らのグループホームに置き換え施設理念を構築した。「なじみの環境・なじみの関係・なじみの生活」を理念に住み慣れた生活を続けて行くことを目指している</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>施設理念と職員自らが作り上げた介護理念を常に目にする場所に掲示してあり理念が入居者への接遇の基本として毎日の申し送り時に勤務者で唱和し理念の実践にむけて全職員が介護にあたっている</p>	<p>施設の理念や介護理念が実践出来ているか振り返りを行い、今以上にどう介護現場に生かして行くかを全職員で今後も話し合っ行ってきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>パンフレットに記載し入居者家族には入居相談時に理念を説明。施設に出入りする方には必ず目にする場所に理念・介護理念を掲示している。地域の方を招く催し物の際には必ず理念に触れ、理解してもらえよう取り組んでいる</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の町内会の方には行事に招待したり、協力を仰いで関係強化に努めている。近隣から野菜の寄付があったり、花を見に立ち寄ってくれる人が増えている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会主催の公園の花の植に入居者の方と職員が参加したり、まどかの3周年コンサートに演歌歌手を招き、町内会の方を招待して120人あまりの方が参加していたり地域との交流に努めてる</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>認知症100万人キャラバン事業に対し率先して職員をキャラバンメイト養成講座に参加させ地域で認知症高齢者を支える町作りを町に働きかけている</p>	<p>認知症介護の拠点となるべく町及び各機関や住民に働きかけていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価により改善点がはっきりするためその改善に努めている。前回の調査時のアドバイスを取り入れ家族通信に認知症の理解を促す文章を定期的に入れるなど外部評価を生かす取り組みをしている		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営会議は2ヶ月に1回実施。現状報告や運営や行事などの協力を仰ぎたいことを伝えたり要望を聞いたりしてサービス向上に努めている		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	常に運営状況を報告したり指導を仰ぎ、グループホームでのサービス向上に努めている。また行政に対しても様々な問題提起をしており福祉サービスの向上を働きかけている		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	家族や、身元保証人がはっきりしている方が多く、現段階では制度を必要としている人はいない。		今後必要になる入居者の方もいると考えるため研修会などに参加し活用できるようにしていきたい
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待や拘束についての研修会に参加し職員の意識を喚起している。管理者は入居者の身体的、精神的変化に注意し虐待防止に努めている。拘束が虐待であるという意識を常に職員に伝えており、不要な拘束がなされないよう常に職員と協議している		転倒防止のための介助方法が拘束にあたらないかを常に職員と検討し、虐待防止の意識を高めていきたい
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約についてはわかりやすい説明に努めた上で入居者・入居者代理人が納得した上でやっている。誤解を与えるような項目がないか確認し、十分な説明を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付担当者を設定している。運営推進会議にも入居者の代表に参加してもらい意見を出してもらっている		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	まどか通信において個々の普段の暮らしぶりを報告したり、金銭預かり表を毎月領収書とともに郵送し報告している		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会に対し要望や、意見を募っているが家族会に参加する家族も限られ、意見・要望が上がってきていない状況であるが今後も積極的に働きかけていきたい		家族会のあり方についても入居者家族と協議していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員全員参加の全体会議を実施。入居者に関することや運営に対しても職員の自由意見を募り反映させている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に合わせて勤務時間を変化させ対応している。仕事帰りに面会する家族には必要に応じて職員が残り状況を伝えている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職が最小限に抑えるため就職時には説明を十分に行い、また残業の無い様に配慮し職員の離職を防いでいる。入居者には離職時に影響が及ばないように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は勤務年数に応じて各種研修に参加させたり、自己研修を奨励し、積極的に資格取得を勧め、希望者には勤務調整するなど支援を行っている		今後介護職員の視野を広めるため他施設への実習を予定している
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	所属するグループホーム協議会の研修会には積極的に参加し交流が図れるように取り組んでいる		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の親睦会に対し全員が参加できるように勤務を配慮したり、相談しやすい環境を作っている。勤務中の休憩に対しても職員の希望を優先してストレス解消に努力している		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	勤務状況や、個々の努力により評価し、向上心を失わないように配慮している		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	実際には家族から聞き取ることが多いが本人との面談の際は本人の不安や希望していることを聞き取るように努力している		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の抱えている問題を聞き、望んでいることは何なのかを汲み取るように努力している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	直接グループホームを利用したいという相談がほとんどのため入居前に必要なサービスの手続きなどを積極的にアドバイスしている。(例身障手帳の取得等)		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	現実には急遽入居したいという希望で相談する家族が多い為、入居前に雰囲気に慣れてもらうことは難しいが入所後ご家族と協力して本人が納得や安心できる様に取り組んでいる		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者にも職員と一緒に暮らしている意識を持ってもらうよう積極的に手伝いを頼んだり、職員が教えてもらう場面を作っている。(食品の調理方法や、献立を教えてもらう。掃除などを手伝ってもらう)		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な面会時や面会の出来ない家族にも状況を知らせ、共に支えていく原則を維持するように働きかけている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	関係の悪かった本人と家族の関係修復に努め、家族の理解を促しより良い関係に向かうように支援している		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居直後には混乱から外出や面会を一時的に控える必要がある方も多く、それまでの生活から離れてしまう方も多い		対応的に難しい入居者の方もいるが、入居前の人間関係を保つと言う視点も介護に加えて行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士が居室を訪問したり、会話をしている機会を大切にしている。自発性のない入居者も職員を介して他の入居者との交流を図っている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院で退所になった入居者に対し見舞いや主治医との相談で関係を続け家族の理解を得て1年半後に退院・再入居になった例が1件ある。それ以外は入院(死亡)と他施設(特養)移行であり関係は継続していない		入院で退所扱いになった入居者の方にも職員が見舞いに行っている
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望むものを「センター方式」(私の気持ちシート)を利用し把握し、支障のない限り本人の思いを大切にしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人の生育歴や仕事、家族構成などを詳しく聞き、他のサービス事業者にも状況を確認し、本人の状況の把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の望むものを「センター方式」を利用し把握し、支障のない限り本人の思いを大切にしている望むことや「出来る・出来ないチェック」により本人のできることを周知し対応している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全体会議において本人のよりよい暮らしについて全職員の意見を出し合い計画に反映させている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	対応については随時その状況に合わせた計画に変更している		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員が毎日の介護記録を記載しており、常に全職員が確認することで共有化されている。その状況で介護計画を修正している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物や受診、生活した家を見に行くなど一人一人に合った支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者本人からの希望が具体的が無いため日常的には支援していないが、選挙時は本人が権利を行使出来る様に投票所への送迎を介助している		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホーム入居中は他のサービスを利用することはまだが医療としての訪問看護の導入を検討したり特養への移行を踏まえ情報を交換している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に地域包括支援センターとは連絡しあい、入居者の状況について協議している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期受診の介助を行い健康相談をしたり、急変時の対応を行っている。歯科医の往診もいただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	もともとの主治医に状況を報告し相談しているのが現状である。認知症の専門医が日常の通院圏内になく受診しづらい状況である		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在看護職員は勤務していないが町立病院の看護師には日常的に相談している		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に際しては常に状況の連絡を取り合い、面会に行くなどして入居者の不安を取り除くように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	施設としては重度化に対しては出来るだけ暮らし続けてもらう方針を取っているが医療面では対応できることに限りがある。その事をご家族に説明して重度化の際の対応を相談しながら対応している。		ご家族と相談しながら施設移行の可能性がある入居者の方はその方が申込をしている特養に情報提供をし、施設移行がスムーズに行くよう連携を取っている
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現状では看護婦が勤務していない事やその可能性もなく、終末期については対応が困難と感じている。具体的な準備はしていない		今後看取りの希望者が出た場合医療行為の出来ない現状で何処まで対応できるかを施設内で検討していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族の一方的な特養移行が1件あり、移行先での入居者の混乱を聞くと十分な話し合いが必要である事を当施設は痛感した。家族や移行先にも住み替えることのダメージを理解してもらうよう現在働きかけている</p>		<p>サービスごとの利用者のすみわけが必要と痛感している。環境が変わることのダメージを強く受けるグループホーム入居者が安易に施設を動かされることの無い様に家族や行政・他施設にこれからも働きかけていきたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者へは本人が望む呼び方をしたり、その方の能力を尊重した介護方法を取り、個人記録は第三者の目に触れないように保管されている。入居者の個室は掃除などで出入りする場合でも本人の許可を得ている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が希望を表しやすいように声かけの方法を工夫したり、何かを選ぶ場面では本人の希望を優先することやまず本人が納得することを基本に介助に当たっている。具体的には水分摂取時に何を飲みたいかや購入したい商品は何かなど選択は本人に任せている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>生活全般を職員の用意した日課に当てはめるのではなく、入居者の生活行為のペースにあわせて支援している。(起床・就寝・排泄・休憩等)</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2ヶ月に1度訪問美容・理容が来てくれるが、希望により町のなじみの美容・理容室に外出介助を行っている</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の状況に合わせて、できる部分は一緒に調理している。メニューを考えてもらったり、ゴマすりや、野菜の下処理、茶碗拭きなど行ってもらっている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食中毒防止の点から日常的に食品を本人の居室に置くことは避けていただいております。万一面会時など職員に預けていただいたおやつなどは職員が確認の上食べていただいております。アルコール中毒の入居者もいることから飲酒は積極的に勧めていません。タバコは医師に禁止されている入居者も多い中本人の強い希望と家族の同意で吸い続けている入居者がいます。喫煙場所で職員管理の下吸っていただいております		火災予防の点から職員管理は仕方ないが、より一人一人の嗜好に合わせて介護を行なっていきたい
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔を把握し、失禁が無い様に一人ひとりの時間で誘導している。オムツの使用を最小限にし、必要により紙おむつの種類を変えるなどし排泄支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	勤務形態や経費の事情で入浴日や時間は限定されているがシャワーは常に使える状態にある。入浴を希望しない入居者もあり、声掛け等を工夫している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠を訴える入居者には日中を含めた生活全般を確認し、精神不安の有無やそのフォロー・日中の活動量を確保し安眠に導く様工夫している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その方の能力や意欲により役割を設定しそれが負担にならないように配慮している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物のための外出支援を設定し、自分で好みのものを選ぶように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員と共に外作業(野菜を収穫する、草むしりをする)をしたり、冬季でも買い物やゴミ投げに誘い外気浴するなど外に出る機会を確保している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族面会時に一緒に食事に出かけたり、遠方の花見やドライブに出かけている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の子機を使い居室で気兼ねなく電話したり、年賀状を書く支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	知人の方には職員があった場合面会に来てくれる様に常に声かけをしている。居室でゆっくり話しが出来るよう茶湯を用意もてなしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が拘束廃止推進についての研修に参加し、施設内でも拘束廃止推進委員会を毎月の全体会議時に開催し拘束にあたる事項がないか、あった場合その必要性を常に検討し解除出来ないかを検討。記録に残している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は防犯の為に夜間(21時~7時)に限られる。飛び出し防止のため玄関を施錠する場合は短時間に留め、必要が無くなった場合速やかに開錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の行動は職員は常に見守りが原則としている。夜間に関しても常に全居室が見渡せる場所で待機しており、トイレ等で起きたときは歩行見守りをし転倒等の事故防止に努めている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	常に入居者の行動を見守りし、入居者一人一人の状況に合わせ転倒防止策を随時取っている。物品は入居者の行動に支障のない配置を取っている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止の研修会への参加や飛び出し防止の対策を定めている。誤薬防止のため与薬時のダブルチェックなど対応方法を定めており複数の職員がお互いに確認し合い誤薬を防いでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応のために施設内で消防による救急救命講習会や避難訓練・緊急通報訓練を定期的に行なっている。保健所保健師を招きノロウイルス感染予防・対応訓練を行なっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練や予告無く職員緊急招集訓練を行なっている。		今年度防火責任者を設置する予定
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族には利用開始時や入居者の状況の変化時など細かく状況を伝え事故の危険性を伝え理解を促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化はケース記録に記載すると共に職員が声を掛け合い、注意喚起し早期対応できるように努めている		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の各投薬の情報リストをファイルして常に職員が見えるように備えつけている		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表に排便の状況を記載し排便間隔を把握。飲水量や活動量の調整と共に下剤も併用しながら順調な排便が出来るよう取り組んでいる		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの研修会に参加したり、保健所の保健師を招いて研修を行ない口腔ケアの重要性を理解し、歯科医の往診も受け、入居者の口腔内の清潔に努めている。起床・就寝後・毎食後には口腔ケアの介助や声かけを行なっている		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分摂取量を記録し、食事拒否の多い利用者には誘導など工夫すると共に補助栄養を導入するなど工夫している。生活習慣上朝食を食べない入居者の方にも随時声かけをしつつ食べる気になった時には食べられるように支援している		献立について町の管理栄養士に適時相談している
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策の取り決めがあり、研修会参加や保健所の保健師を招いてノロウイルス対策を学ぶなど職員研修に努め、職員は実際の介護場面に生かしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食品の賞味期限の厳守や調理場面の衛生保持に努めている。(手洗いや手洗い後の紙タオルの使用、調理器具の消毒など)</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>夏期は敷地内の花壇や玄関周囲にはベンチを置きポットに花を植えたり、また漁業用浮き玉を利用してのライトアップで飾っており近隣の方が訪れてくれている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用部分には花を飾ったり、季節の飾り付けをし、調理の音や香りが生活感を感じられるように配慮している</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者の個室内は入居者が自分の部屋として思い思いに過ごしており、時には居室を訪問し合っている</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には仏壇を持参されたり、入居者の希望で床頭台を持って来られたり使い勝手の良いように使用してもらっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>入居者が快適に過ごせるよう室温や湿度調節を行なっている。夏期は換気のため窓を開けるよう勧めたり窓を開けられない冬季は居室に体臭等がこもらない様必要な方には消臭剤をベッド下に置いたりしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>玄関やホール壁、トイレ、浴室など手摺が設置しており、入居者の方が自主的に歩行訓練したり自分の力で立ち上がることができる様に配慮している</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>対応は入居者の納得を導いて行なうことを基本としており、一方的な介助で入居者の混乱を招かない様に対応している</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設周囲は夏期は畑で野菜を栽培しており、職員と一緒に草取りをしたり収穫をしている。それぞれの窓からは花が眺められるように配置している</p>	



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<u>毎日ある</u> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<u>ほぼ全ての家族</u> 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <u>たまに</u> ほとんどない</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p><u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p><u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p><u>ほぼ全ての家族等が</u> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

広い敷地を利用した野菜栽培を利用者と共に行なっている

家族にたいし日々の生活の様子を写真付きで知らせる「まどか通信」を毎月発行している

運営推進会議には町の福祉課長の参加が毎回あり、町との関係が密である

若い介護職員が多く、入居者との会話も多く施設内の雰囲気明るい